

ムクゲカメムシ類の角亀川流域における生息状況

菅藤康平

角亀川 (図 1) は、兵庫県たつの市新宮町二柏野地域を流れるやや小さい川である。この川では、兵庫県立大学附属高等学校自然科学部生物班員によるファウナ調査が実施されており、筆者自身もその調査を行ってきた。

ムクゲカメムシは、体長 0.5 ~ 3.0mm の世界最小級のカメムシの仲間で、世界に約 430 種、日本に 9 種が知られているが、微小で地味で目立たないため採集例が少なく、都道府県レベルで取りまとめた報文は少ない。本校自然科学部生物班においても、これまでムクゲカメムシ類のファウナ調査は調査されておらず、角亀川におけるムクゲカメムシ相は長らく不明のままであった。

筆者は、2024 年 6 月から 2024 年 9 月まで当地で調査した結果、2 種のムクゲカメムシ類の生息を確認することができたため報告する。

調査で得られたムクゲカメムシ類の 2 種を以下に示す。採集地は全て兵庫県たつの市新宮町二柏野角亀川流域であり、記録者も全て筆者であるため省略した。

1. カワラムクゲカメムシ

Pachycoleus japonicus (Miyamoto, 1964) 図 2

【採集記録】川岸の石の下：26. VI. 2024, 5. VII. 2024.

2. トビイロムクゲカメムシ

Alpagut masakazui Yamada & Hayashi, 2020 図 3

【採集記録】川岸の石の下：5. VII. 2024, 10. IX. 2024.

今回の調査では、2 種類のムクゲカメムシ類の生息状況が明らかになった。しかし、調査期間が短かったこと、調査区域が狭い範囲だったことから、角亀川のムクゲカメムシ相の生息状況が全て明らかになったとは言えない。今後も本校自然科学部生物班で調査を継続していく方針である。

末筆であるが、同定等にご協力いただいた山田量崇氏に厚くお礼申し上げる。

(Kohei KANTO 兵庫県立大学附属高等学校)



図 1.



図 2.



図 3.

芦屋市におけるヒトエグモ *Plator nipponicus* の写真記録

西 隆広

ヒトエグモは兵庫県版レッドリスト 2017 (哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類) 1) で A ランクである (兵庫県, 2017)。本種について芦屋市内で次の写真記録を得たので報告する。この個体は、住宅のコンクリート塀に静止していた。筆者はクモ類について不案内であるが、所有の図鑑 (八木沼, 1960) により同定した。

ところで本種の県内での観察場所に関する兵庫県レッドリストの記述は、『豊岡市では大工小屋の木材の隙間、川西市では人家の室内、姫路市内の寺院の漆喰の壁でそれぞれ見つかっている。いずれも人家と関係が深い場所で、日本における従来の発見例と類似したパターンである』となっている (兵庫県, 2017)。所有の図鑑では、本種の観察例は建物や石碑などの隙間に多いとのことであるが (八木沼, 1960)、この個体は隙間ではなく道路に面した宅地のコンクリート塀の道路側で、前面